

2018年3月6日

AGC 旭硝子、AGC Biologics 社のバイオ医薬品培養能力を增強 —米国バークレーに培養槽を増設、スケールアップに迅速に対応—

AGC旭硝子（旭硝子株式会社、本社：東京、社長：島村琢哉）は、当社CDMO*¹事業子会社のAGC Biologics社*²で、バイオ医薬品の培養能力を增強しました。本增強により同社バークレー工場(米国カリフォルニア州)の培養能力はおよそ2倍となり、增強した設備は2018年3月より本格稼働を開始します。



バークレー工場動物細胞培養槽

AGC Biologics社は、動物細胞と微生物を用いたCDMOで、プロセス開発、スケールアップおよび商業製造までの高付加価値サービスを提供しています。バークレー工場では、開発初期からPhase II*³ 段階のバイオ医薬品製造・開発受託に特化しており、セルバンク*⁴の製造・保管・培養から精製まで幅広いサービスを提供しています。今回2,000リットルのシングルユース仕様*⁵の培養槽を新たに導入することで、開発初期からPhase II段階の幅広い顧客の要望に応え、開発ステージ進捗に伴うスケールアップ製造にも迅速に対応することが可能となります。加えて各国、各地域のお客様へのよりスムーズな提案や、世界中どの拠点においても実績に基づいたより質の高いサービスを提供することが可能となります。

AGCグループは、経営方針 **AGC plus** の下、ライフサイエンス事業を戦略事業のひとつと位置付けています。今後も大きな需要の伸びが見込まれるバイオ医薬品事業に対し、必要な設備投資を実施していきます。また各国、各拠点のシナジーを最大限発揮し、開発から商業製造までを円滑かつ迅速に進めることで、製薬会社、患者様、そして社会に貢献していきます。

以上

◎本件に関するお問い合わせ先：

AGC 旭硝子 広報・IR 部長 玉城 和美

(担当：北野 TEL: 03-3218-5603 E-mail: info-pr@agc.com)

<注釈>

* 1 CDMO：製造受託に加え、製造方法の開発を受託・代行する会社

(Contract Development & Manufacturing Organization)

* 2 2018年1月より当社バイオサイエンス事業の一体運営を開始しました。現社名は CMC Biologics 社ですが、一体運営開始に伴い、社名を AGC Biologics 社に統一する予定です。法人名変更は、2018年度中を予定しています。

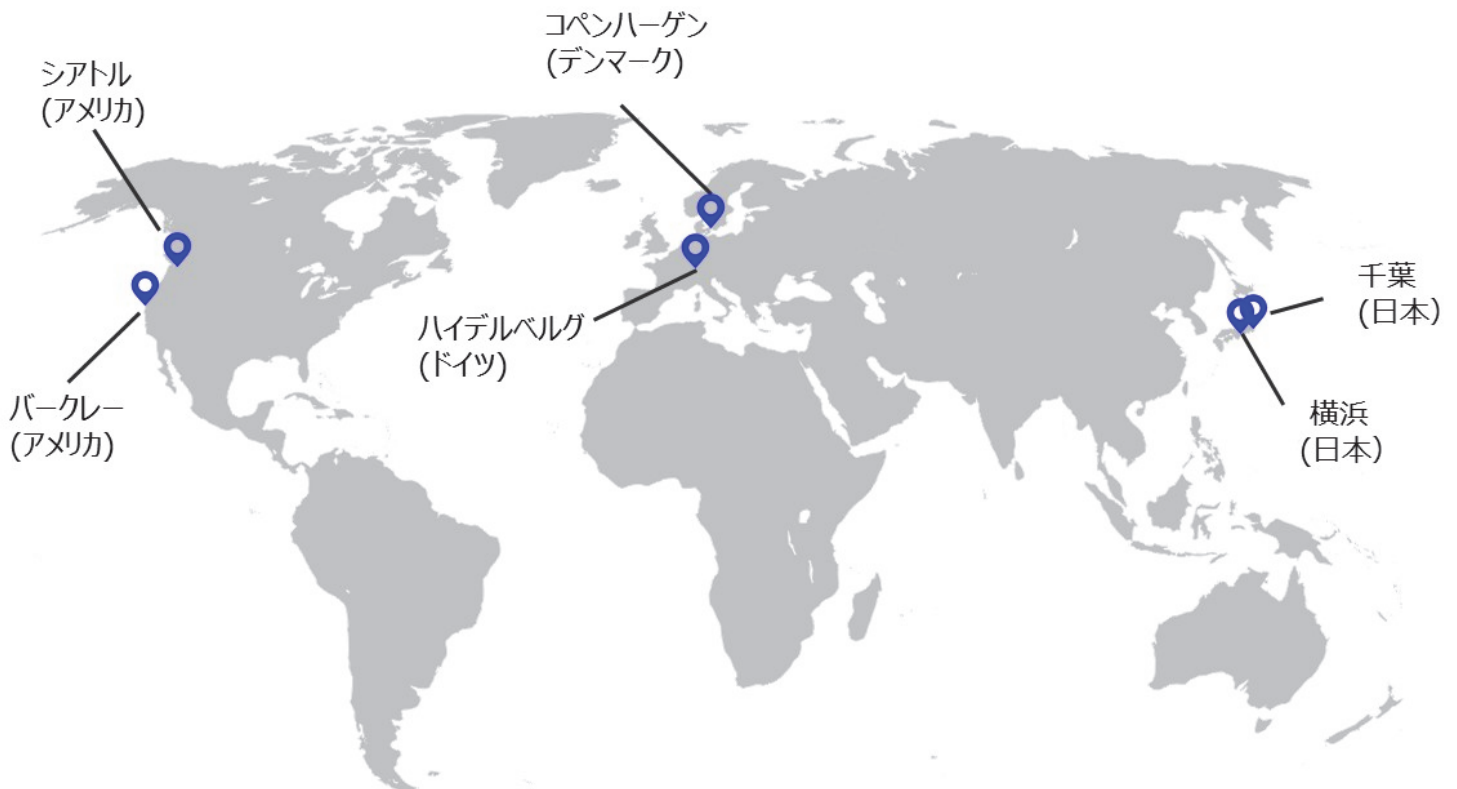
* 3 Phase II：治験薬第 II 相試験

* 4 セルバンク：均一な組成の細胞の集まり。

* 5 シングルユース：使い捨て容器を使用した培養槽。洗浄・滅菌工程が不要で、洗浄不足によるコンタミネーションのリスクがない。

<ご参考>

■AGC グループのバイオサイエンス事業拠点■



◎本件に関するお問い合わせ先：

AGC 旭硝子 広報・IR 部長 玉城 和美

(担当：北野 TEL: 03-3218-5603 E-mail: info-pr@agc.com)